

令和元年度 私立大学研究ブランディング事業外部評価委員会(未定稿)

日時：平成31年2月22日(金)

14:00～15:00

場所：岐阜女子大学本館 2階 中会議室

委員会次第

【議題】

1. 開会

【学長挨拶】

- 本日は、「私立大学研究ブランディング事業」の外部評価委員会にご多忙のところまた遠方からご参加いただきありがとうございます。
- この研究事業は当初5年ということで採択されましたが、諸般の事情で3年に短縮されましたので、今回の外部評価委員会にて最終の外部評価委員会となります。
- この間、岐阜市、高山市、郡上市には格別にお世話になりました。ありがとうございます。お陰様で地域資源のデジタルアーカイブ化を進めることができました。
- まだまだ不十分ではございますけれど、デジタルアーカイブへの認知度も次第に高まってきてるところでございます。
- この研究事業はこれで終了となりますが、ここで得られました知見やご縁を財産として、今後とも別の形で発展・継続させていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。本日はそういう意味も含め、どうぞ忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

2. 私立大学研究ブランディング事業の活動の報告

- 本事業は平成29年度より3年間、社会展開型タイプAとして採択された33件が採択された中の1件であり、岐阜県では本学のみが採択されました。
- この社会展開型タイプAの目的は、地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する研究とされており、この趣旨に沿った事業を展開させていただいております。
- 1つ目は、飛騨高山の匠の技を取り上げ、飛騨高山の伝統産業である、飛騨春慶塗、一位一刀彫、木工家具等の記録、できれば匠の“こころ”も記録し、海外に発信できる仕組みをつくっていきたくと考えております。2つ目に、郡上白山文化遺産を岐阜県に重要な観光資源の1つとして取り上げさせていただきます。
- デジタルアーカイブでは記録を撮って、活用し、さらに新しいものを創造することにつなげていければと考えています。

- 飛騨高山の匠の技については、達成目標10万件に対し、78,783点のデータを収取し、79%目標を達成できました。公開型にデータベースとしてホームページで公開するとともに、長期保存型のデータベースを構築しております。また、中部国際空港にデジタルサネージを設置し、デジタルアーカイブを使った日本語と英語の映像を6本展示しています。本日、1部を会場に展示しております。
- 郡上白山文化遺産については、達成目標5万件に対し、75,022点のデータを収取し、144%目標を達成できました。岐阜県、石川県、福井県、3県に渡る文化であり、郡上をはじめ石川県白山市教育委員会、福井県勝山市教育委員会等、関係する地域の方の協力を得ました。
- 今年度から岐阜市で8,778点のデータ収集、沖縄県で2,470点のデータを収集しました。すべて合わせると約16万点のデータを収集できたことになります。
- この他、100年保存する方法の研究、地域との連携を重視し、2月3日に岐阜市との包括連携協定を結ばせていただき、全学でデジタルアーカイブを大学のブランドとして展開できるように、後ほどご紹介する5つの特別企画活動も展開しました。

【質疑応答】 ○印：委員 ●印：事務局

- 膨大な数のコンテンツを収集されていますが利活用については、メタデータでの検索が中心になるのか？
- まだ、メタデータで検索できるところまでは行っておらず、今後AI等を取り入れてシステム化したいと考えております。
- 5年間で3年間になったが達成できたものは十分なものであったか？やり残した事、足りないところは今後続けていくべきだと思うがどうなのか？今後の構想はあるのか？
- 当初の予定では、まず3年間でデータを集める、あとの2年間でデータの活用・展開を考えるという計画であったが、その2年間がなくなりました。今後は、学生の研究活動の中に取り入れて継続的に行っていきたいと考えております。
- 活用だけではなく、新たな展開についてはどのように考えているのか
- 文化財を中心に集めているが、教材での活用を考えたときなどは、現在の収集方法では不足する。現在あるデータを核として多方面に活用できるデータを集めていきたいと考えております。
- 学生を活動にかかわらせ、その為の教材作成に展開していくとよいと思う。
- 外務省からの依頼でロサンゼルスジャパンハウスに関わっているが、そのような場にデータを発信されてもいいと思うが提案し活用することは可能か？
- 国内ではどのように発信しているのか、世界にはどのような形で発信しているのか？
- 英語は作成したが、今後、多言語化を図っていく予定である。活用については、是非協力させ

ていただきます。

- 例えば、資料 12 ページに掲載されている「越谷の能楽堂」は、記録、活用、創造の中で、具体的にどのように紹介されているのか。
- 現在は記録が中心で、1部の映像をデジタルサイネージや YOUTUBE, WEB サイトで公開することに過ぎない。最終的にはオープンデータとして提供し、それぞれの現場で活用するという事に結びつけていきたいと考えている。本学では、特に教材に活用するなどして、活用のモデルをつくっていききたいと考えています。

3. 大学の特別企画活動状況の報告

- 今年度は5つの特別活動が採択されました。報告書5冊が机上にありますのでご覧ください。
- 「昭和・平成を駆け抜けた～報道記事から見る岐阜の偉人たちの素顔」は、デジタルアーカイブの活用に関する研究は少なく、岐阜新聞社では創刊以来の記事データが保管されているが活用されているとはいいたくないという状況である。そこで、本学と岐阜新聞社が連携し、地域情報の宝庫である岐阜新聞の記事データを活用し、その具体的な活用事例を示すとともに、活用における課題を明確にする研究でございます。調査対象者は、明智光秀をいれて9名でございます。
- 「学修支援資料デジタルアーカイブの共有化および成果の公開と評価に関する研究」は、①学びの記録と質保証のための学修ポートフォリオの活用②学生の研究資料の記録と質の向上③卒論のデジタル保管と活用④ティーチングポートフォリオを用いた授業の改善と教育の質の向上の4つのポイントとしたデジタルアーカイブを活用した学習支援活動の実践でございます。
- 「沖縄地域文化のデジタルアーカイブ活動」は、本学の沖縄のサテライトキャンパスにおいて、沖縄の文化資源のデジタルアーカイブ化を行うことと、デジタルアーカイブ活動に携わる人材の育成として、沖縄女子短期大学との連携によるデジタルアーキビスト資格取得講習会の実践報告です。
- また、「デジタルアーカイブに関する研究報告会の開催」は、文化財のデジタルアーカイブを担う企業の担当者を交えたシンポジウムを行いました
- 「各務原市空き家リノベーション」は、人口減少の進展とそれにとまなう空き家問題の深刻化を解消し、地方創生につなげるために、空き家のリノベーションを学生達が行いました。その際、リノベーション・デザイン案のサンプル・リノベーションのための具体的な工法・DIYによるリノベーション手法のデジタルコンテンツをデジタルアーカイブ化し住居学専攻の授業教材として活用したものです。
- 「岐阜市内における地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成」は、岐阜市内の地域資源のデジタルアーカイブ化とその公開と地域課題の解決や新しい文化を創造できる人材の育成

として準デジタルアーキビストの育成を今後行なっていきたいというものでございます。

【質疑応答】○印：委員●印：事務局

- 大学の役割として、地域文化を活性化させる一端となるのには、今回事業は地域を活性化するという観点では、重要な役割を担い、成果が出ていると思う。そこで、新たな文化を創っていくという観点では今回の成果をどのような役割を担っていくのか？
- 本学に留学生はいるのでしょうか？外国の方を巻き込んだかたちで文化について考え、地域の文化を掘り起こすことによって、新しい創造に直結していくのではないだろうか。
- アーカイブ化をするために色々と調査をしておりますと、私たちも知らなかったことに知ることもあるように、地域の方も知らないようなものを掘り起こすことによって、それを例えば観光に使うとどうなるのだろうかなど考えることによって、新しい創造につながることはあると思います。
- 岐阜にも高山や白川郷辺りには、沢山の外国人観光客や日本語学校もできており、留学生の方もいますので、デジタルアーカイブ活動にそのような方を巻き込むことで、外国人の目線での記録や発信ができると思います。
- デジタルアーカイブコンソーシアムと連携して、高山市のありとあらゆるコンテンツを発信していこうとしているが、今回の膨大な量のデジタルアーカイブも是非連携して一緒に行いたい。
- 知の拠点形成としてのデジタルアーカイブの活動は理解できたが、文化財の整理をしながら、同時にその魅力を発信していくということが重要である。
- 岐阜女子大学には、昔のように現場に行き、文書の整理をされるシステムはあるのでしょうか？
- 個々の相談に乗り、卒業生が活躍させていただいているケースはあるが、大きなシステムは存在していないので、ケースバイケースでご相談いただければと考えています。

4. 評価委員講評

【A委員】

- アーカイブで地域の事が目にみえる形になるのは、とても良い試みだと思うので、教育の現場等、色々な場で発信されると良いと思います

【B委員】

- かなり短期間に大規模に多くのコンテンツを集められたことに感心しております。
- どう外に対して流していけるか、今後、東京大学で行っている活動と一緒にやらしていただければと思います。

【C委員】

- 短期間にこれだけの成果を上げられたことに敬意を評します。
- せっかくの成果物ですから、積極的に広範囲に活用して欲しいと思います。
- 研究の経過を教育に生かすことが、非常に大事だと思います。学生について、学習者本位の教育を考えたとき、課題解決型の学習の中に学生の充足感が出てくると考えられ、教育改革のための研究ではありませんが、今回の内容ややり方を教育に生かすことで学生の充足感も得られると思います。

【D委員】

- 人を育てるということは、非常に難しいなといつでも感じております。こちらの大学を卒業されて色々な現場で活躍されている人材が生まれていることを大変嬉しく思います。
- デジタルアーカイブを学ばれ、地域について学ばれた学生が就職してくれると非常に助かります。

【E委員】

- これだけ沢山の記録をされたということで、発信や活用についてのご意見が大変多かったと思います。
- その中で、オープンデータに関する指摘もあったが、実際に日々、著作権を精査しながら活用をしている状態なので、オープンデータはとして提供いただけると安心して日々の媒体に使えるということで、自治体だけでなく、企業、市民活動でも多いに活用できると思っております。
- 長良川大学の講座として、広く市民の皆様デジタルアーキビストとしての経験を踏んでいただくことが重要だと思います。特に、リタイアされたアクティブなシニアの方に入ってきてもらうことは、大きな地域の力につながるのではないかと思います。
- 飛騨の匠の技のデータを拝見しましたが、岐阜市にも沢山の教材があります。例えば、岐阜和傘も使っている機械が古くなっており、他で使う用途もないことから壊れてしまったのだろうということです。このような物もデジタルアーカイブで次の世代に受け継いでいけるのではないかと思いますし、若い職人の教材や学んでいく力になると思います。
- 再開発やリノベーションで、今のどんどん街の姿が変わろうとしております。地域の中に沢山残していくべき素材があることを実感しましたので、是非今後ともデジタルアーカイブをしていただけるとありがたいと思います。

5. 閉 会

- 委員の皆様、本日は貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。
- 今後、本学としましては、今回の外部評価委員のご意見を元に、今後とも大学が地域の知の拠点として地域と連携しながら地域の課題を解決するためのデジタルアーカイブ化と人材養成を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○以上を持ちまして、私立大学研究ブランディング事業外部評価委員会を閉会したいと存じます。委員の皆様、本日はご出席賜り、誠にありがとうございました。